

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット/2階ユニット)

事業所番号	2770300917		
法人名	医療法人 協仁会		
事業所名	グループホーム なごやか		
所在地	大阪府寝屋川市川勝町11-27		
自己評価作成日	令和5年9月11日	評価結果市町村受理日	令和5年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和5年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院が併設されており、入所後も体調面で不安があればいつでも受診が出来る環境で安心して過ごして頂いている。また、在宅医療との連携もと受診が困難となっても往診を受ける事が可能である。コロナウイルス感染症の拡大で地域との関わりが取りにくい現状であるが、その中でも法人内の複数の医療・介護サービスが連携を取り、地域の住民に寄り添ったサービス提供を行なっている。なごやかでは入居者一人一人の「自分らしい生活」が継続出来るよう日々の生活支援を通して関わりを密に取るよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体とする当事業所は寝屋川市(2箇所)、四条畷市と3箇所のグループホームを展開しており、主に寝屋川市を中心に高齢者介護施設を展開している。同建物内には介護老人保健施設(老健)を併設し、互いに協力関係を築きながら、地域との連携も上手く図っている。最寄りの各主要駅からは、友の会運営の無料送迎バスが出ており利便性がよい。今年4月に着任した管理者を、勤続歴の永いベテランの職員が支えている。職員同士は仲良く信頼関係を築いており、評価機関が実施したアンケート調査においても、利用者家族からは安心して任せられると好評を得ている。桜の季節には近隣の寝屋川河川敷へ散歩外出した際に、家族に会わせたりと職員は知恵を絞っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果【3ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭や地域に開かれた施設であること、思いやりと優しさを持って入居者様が生き生きと過ごせるよう支援を行う事を理念に日常的に支援を行っている。	事業所の独自理念「利用者の意思・人格の尊重」・「明るく家庭的な雰囲気の中で地域や家族との結びつきの重視」を考えて、重要事項説明書に明記している。その他、なごやか理念を考えて玄関、各ユニットに掲示しており、職員は毎月の会議の中で共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前は地域の老人会に出席等していたが、コロナ渦でなかなか外部との関わりが難しい状況である しかし状況を見ながら今後参加再開の方向で検討している	地域の老人会に加入して情報を得て、敬老会や夏祭りに参加して交流を図っていたが、8月にコロナ感染者が出たこともあり、再開しようとしていた地域との交流、ボランティア団体の受け入れが再び途絶えている。老人会からの要請があり、年内には認知症サポーター養成講座を開催する予定がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で定期的に地域の活動状況等を確認している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、地域や地域包括支援センターの職員と情報交換・話し合いを行なっている	会議は地域の福祉委員長(老人会々長、民生委員兼務)、地域包括支援センター職員、家族が参加の下に、入居者状況、行事報告、地域からの各種情報や要望等が報告され、地域行事の再開予定や面会の再開、入院中の利用者居室へのショートステイの受け入れ等が話し合われている。	今後は利用者家族、地域等から会議への参加者の拡大をはかり 会議の中で話し合われた議事録は家族や関係者に郵送し各方面からの意見を聞き、サービスの向上に活かされることを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターへ定期的に空床状況や活動状況を伝えている。コロナ渦で、施設の集まりが定期的に開催されているが参加出来ない	市の高齢介護課とは、事故報告や入居者の要請等で訪問している。市が主催の感染症対応研修に管理者が出席して学習している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の身体・精神状態の把握に努め、危険な行為があっても支援の仕方の工夫をしながら安全に過ごして頂けるようスタッフ皆で話し合いを行なっている。また、定期的に法人の介護事業部で開催している身体拘束廃止の為に委員会に参加している	身体拘束廃止指針の基に、法人が主催する安全抑制廃止委員会に月に1回出席している。各フロア内ではヒヤリハット、身体拘束の有無を毎月確認し、委員会にて検討している。研修はYouTubeで見てもらい言葉の言い換えやかけ方等を学んで職員からアンケートを取っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修に参加したり、学習会を行なう事でスタッフの意識の維持と向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等への参加を行いながら、必要な方へ活用出来るよう支援を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には入居者・家族へ契約内容や重要事項説明書に沿って説明し理解・納得を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ渦で家族会が開催できない中、日々の面会時にこまめにコミュニケーションをとり、要望等があれば、管理者・スタッフ皆で共有し出来る限りご希望に添うように努めている 前回の外部評価の結果を玄関に置き、どなたでも確認できるようにしている	面会は居室に入ってもらい行なわれていたが、8月にコロナの感染者が出たことから再び玄関口で時間を決めての面会となっている。居室担当者から、コメントや写真を添付した「なごやかだより」が毎月郵送され家族から好評を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヵ月に1回、なごやか会議を行いスタッフと意見交換をしている また、行事や催物等の提案があれば出来る限りそれに応えスタッフが主体的に行動出来るよう努めている	フロア会議が毎月開催され、会議の中で出た職員の意見は、なごやか会議で毎月検討されている。職員は離職率が低く、古参のベテラン職員が多い。年に1回個人面談を行い、シフトの変更や個々の要望にも応える体制がある。外部への研修には、法人から出勤扱いのフォローアップ体制が組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的にスタッフと面談を行い、個々の思いを聞き出すよう努めている スタッフが気持ちよく安心して働ける環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修への参加を勧め、自己研鑽ができる環境を作っている また、研修に参加出来ない場合も資料等をスタッフ全員で共有し情報交換を行なっている。外部の研修にも参加出来るように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前開催されていた寝屋川市のグループホーム集会在コロナの為、開催出来ない地域包括が主催で定期的に行っている施設管理者の会への参加を検討している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前に本人の希望や不安事などを聞き取りし、スタッフで共有することで安心して生活できる環境を作る事が出来ている また、入居して直ぐは慣れない環境で不安も大きいため特にこまめにコミュニケーションをとる機会を作り関係性の構築に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	そもそも施設を利用する事自体に不安がある家族も少なくない為、相談の段階から施設の概要や特徴をゆっくり丁寧に説明し不安が少しでも軽減するよう心掛けている また、入居後も本人の様子をこまめに伝えるようにしコロナ渦で会えない環境でも不安にならない様努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で今困っている事を聞き出し本人や家族にとって最善のサービスが提案出来るよう新しいサービス等の情報交換を同法人の居宅介護支援事業所と情報交換を行っている ゆっくりと話を聞く事で安心される方もおられるため日々傾聴は心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症があっても今まで培ってきた生活の知恵や工夫は多く覚えている事が多い 家事の手伝いや昔の趣味や特技を活かし教える立場に立って頂く機会を作っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の支援に困った時はご家族と相談し、解決策を一緒に導き出すようにしている 今までの生活歴や趣味などを聞き出し支援に活かせる関係づくりを行なっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等の面会はコロナ渦の為、行えず関係継続が困難となっている	馴染みの人や場に行くことはコロナ禍の中で途切れているが、携帯(1名)で家族と話をしている利用者がいる。年賀状のやり取りは、職員の支援のもとに毎年行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や相性に合わせてフロアの席や環境を整えお互いの交流が程よく行えるよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された後もご家族へ連絡を取り現状を把握し相談を聞く等の関係性を継続している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で本人の思いや希望を汲み取れるよう関わっている なかなか自分で思いを伝えられない入居者の思いもスタッフ同士で話し合いながら意見交換して考えられる機会を作っている	自宅や病院に訪問への訪問時や、以前の居宅介護事業所のケアマネージャーに聞いたり、入所前の暮らし方の情報を得てフェイスシートに記録し共有している。その後も好きなこと、嫌いなこと、どの様に暮らしたいか意向の把握に努め、アセスメントを実施して職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までどのように暮らしてこられたか知る事で支援のヒントになる事も多い 一人一人の生活歴を知りそれを踏まえたうえで支援を行う事で本人の暮らしやすい環境づくりを行うよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者お一人お一人の介護支援計画に沿って1日の心身の状態を把握し記録を残している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング・カンファレンスを開催し入居者の現状や意向・家族の思いをスタッフで話し合い介護計画に反映している	計画は短期3か月、長期6か月毎に介護計画の見直しが行なわれている。見直し時のサービス担当者会議では、医師や看護師、理学療法士から事前に意見を聞き取り、居室担当者、利用者が出席の基に開催され、現状に即した介護計画を作成している。見直された計画は、家族に説明を行い同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人一人の介護計画に沿った記録を毎日行いスタッフ間で共有出来るようケアの実践や介護計画などについて計画作成担当者を中心にスタッフで話し合う機会を作っている また、他フロアのスタッフの意見も聞けるよう月に1回のなごやか会議の場で困りごとなどを相談する様にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族の要望があればその都度話し合い支援を行っている 事業所での解決が難しい場合は法人全体の多機能性を活かして支援を行う		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦により地域の方との交流が途絶えている状態である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が隣接している為、医療体制は万全であるが入居者や家族の希望があれば他の病院受診も継続して行って頂けるようにしている	利用者は、入所時に事業所協力医をかかりつけ医とすることに同意し、月1回隣接病院(内科・歯科)を外来受診し、病院での受診が困難な利用者には、クリニックから往診がある。眼科・皮膚科・精神科等は職員が同行し従来のかかりつけ医を受診している。職員の看護師が週2回健康管理を行うほか、必要時には隣接の老健看護師の応援もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師が健康チェック・介護スタッフからの情報提供・相談をもとに体調管理を行い助言を行なっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した際は本人の状況や退院に向けた情報交換を病院関係者で行う様になっている また、日頃より施設の受け入れ状況等の情報交換も行うようにし関係づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人が重度化した際はなごやかでできるターミナルケアについて書面を用いて説明を行なう様にしている また、それを希望された場合は医師・家族・職員・在宅医療介護で協働しより良い看取りが行える様に努めている	終末期には、かかりつけ医が家族に利用者の状況を説明し、家族等が看取りを希望する場合には同意書を得て、在宅医療介護の医療関係者・家族と職員が協働し看取り介護に入る。協力医療機関(病院)が隣接しており、入院を希望するケースが多いが、事業所でも万全の受け入れ体制(事前研修や振り返りのデスカンファレンス等)を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを基に、初期対応で困った場合は法人看護師より指示をもらい応急手当を行い併設病院を受診して頂く 緊急時は併設病院へ直接連絡し搬送を行なっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で協力体制を取っている 半年に1度定期的な訓練を行なっている 非常食等は自施設で備蓄し隣接する老健内にも備蓄している	敷地内の病院・老健等との相互協力による防災対策を整えている。懸念する災害は、一級河川に面しているため、治水緑地も近隣に整備されているものの水害といえる。避難訓練は、5月の火と11月の水災想定で、水害時には事業所4階への垂直避難としている。食料品等の備蓄は、3日分のメニュー分を、その他備蓄品は隣接の老健で保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりが尊重されプライバシーの確保が行える施設である為、定期的に接遇に関する勉強会を開催しスタッフの意識の向上努めている	プライバシー保護については、職員がトイレや風呂の閉扉、居室入室時のノック励行など心掛けている。風呂場には、扉内側半円形にカーテンを付ける配慮もしていたが、消防署の消火の妨げとの指導があり、現在は取り外している。接遇研修では、一方の職員が利用者になるロールプレイングで実効性を高める工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話やケアの中で本人の思いや希望を汲み取りケアに生かすよう努めている また、生活の中で選択の機会を作り自己決定の場を提供している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間は基本的には決まっているが本人が望めば可能な限り対応するように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり衣類を選択して本人の着たい服を着る等の支援を日々行っている また、定期的に訪問理美容師を依頼しカットして頂ける環境を作っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家事・役割等出来る能力を介護計画の中に立案し個々の出来る事・やりたい事を尊重できる環境づくりを行なっている	朝食・夕食は、隣接の老健厨房で調理し提供している。昼食は、業者の献立と食材により、調理専門職員や職員が各ユニット台所で調理している。白板に手書きのメニュー・調理の音や匂いに利用者が食事を待望む姿が窺えた。ちらしずしなど利用者の好みのテイクアウトやおやつバイキングなど食事を楽しむ数々の工夫も行われ、利用者に好評である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた食事を提供している また、お一人お一人必要なエネルギー量や嗜好等に合わせて管理栄養士に相談している 食事形態は咀嚼・嚥下状態に合わせて工夫し毎食の食事量や・水分摂取量を記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている ご自身で行えない方や総義歯の方もスタッフがお手伝いし口腔内を清潔に保てるよう努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人に合わせたトイレ誘導の方法で出来る限りトイレに座っての排泄を目指して支援している スタッフ一人での介助が難しい方は2人で介助して座ってもらう等工夫をしている	排泄は、在宅時や退院時など入所時と比べかなり改善がみられる。日中は、布パンツだけで過ごし定期的にトイレに向かう自立者は各ユニット1人程度おり、残りはパッド併用のケースが多い。夜間は利用者の安眠を重視し、トイレに誘導したり(約半数)、大きめのパッドやおむつを使ったりと、一人ひとりに合わせた最適な対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排泄管理は毎日記録を付け排泄リズムの把握に努めている 特に便秘傾向な方に関しては日頃より水分補給を積極的に行ったり乳製品を接種して頂き携帯相当の運動を勧めている それでもコントロールが難しい方は主治医と連携し必要な処方を行なっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴が出来る環境を作っている 入浴前のバイタルチェックや健康観察はしっかりと行い、無理なくゆっくりゆったりと入浴して頂いている また、入浴のご希望があれば本人の思いに合わせて相談に乗る様にしている	風呂場は、広めのタイル張りではほぼ中央にステンレス製の浴槽が備えられている。職員が一人でスライディングボードを利用する以外は、二人介助になるが出来るだけ浴槽にゆったり浸かってもらえるよう努めている。利用者の希望により季節の入浴剤を使うなど、入浴を楽しんでもらう工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の生活リズムを尊重し、就寝時間を決めずにテレビ鑑賞をして頂いたり、お話を聞いたりしながら安心して入眠できる環境づくりに努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の内容が記載された用紙をファイリングし、スタッフが把握出来るようにしている 新たに処方された内服は引継ぎを行い情報共有できる体制を取っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・掃除等の家事を通して自身のこれまでの生活歴や経験を活かして積極的に参加して頂いている家事を行なう事で生活に生きがいやハリが持てる入居者が多い		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦より必要な受診以外の外出は行っていない	コロナ禍緩和の現在も、散歩や受診以外の外出は原則禁止で、家族等の面会も玄関での短時間限定である。桜の季節に花見に外出した利用者が偶然馴染みの人と遭遇し、久々に会え双方が喜び合ったことがあった。職員も利用者と外出したいが、命に関わることでもあり、感染発生の対処も考えると慎重にならざるを得ないのが現状といえる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ前は買い物に入居者と一緒に行き自身で選んだ商品を自身で支払って頂く事も行っていたが、現在は外出自体が行えていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、またご家族からの希望があれば電話は利用可能である 書くことが得意な入居者や手紙だけでなく取り組んだ塗り絵や手芸等をご家族へ送り喜んで頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは入居者と一緒に季節に沿った飾り等を作成し貼り出している それらの作成を通して季節感を味わって頂いたり、穏やかに明るく過ごして頂いている フロア全体の空調や適宜消毒・掃除を行なう事で清潔で安全な環境づくりにも努めている	日中は、各ユニットともほぼ全利用者がリビングに集まり、それぞれが自分の居場所で、テレビ視聴、新聞や本を見たり、塗り絵や季節の小物制作など静かに楽しんでいる姿が窺えた。テーブル・椅子の他にソファも置かれており、家庭的な雰囲気の中で落ち着いて過ごせる工夫を行っている。清掃は主に夜勤者によるモップがけなどで清潔を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人に合わせて居室で静かに過ごしたりリビングでお喋りをして過ごしたり選択できるようにしている リビングの席は固定し慣れた環境で穏やかに過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはある程度なんでも持ち込める 自宅で使い練れていた家具や仏壇、枕や布団も希望されたものを使用して頂いている また、ご家族の写真等も飾り温かい雰囲気を作っている	居室は、重厚な引き戸を開くと比較的広めの奥に大きな窓からの陽光があり、ベッド、小テーブルと椅子2~3脚、木製の背の高いタンス、天井照明、エアコンや洗面台が予め設置されている。利用者は、自分で選んだり家族・親族から贈られた写真や飾り物を壁や持ち込んだ家具の上に並べたりと家族との絆を感じさせる小物が多く配されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで手すりは完備されており 安全に移動できる環境づくりを行なっている		